

2022年3月

ふるさとつづり

第10期西播磨地域ビジョン委員会 ふるさとつづりチームの活動記録



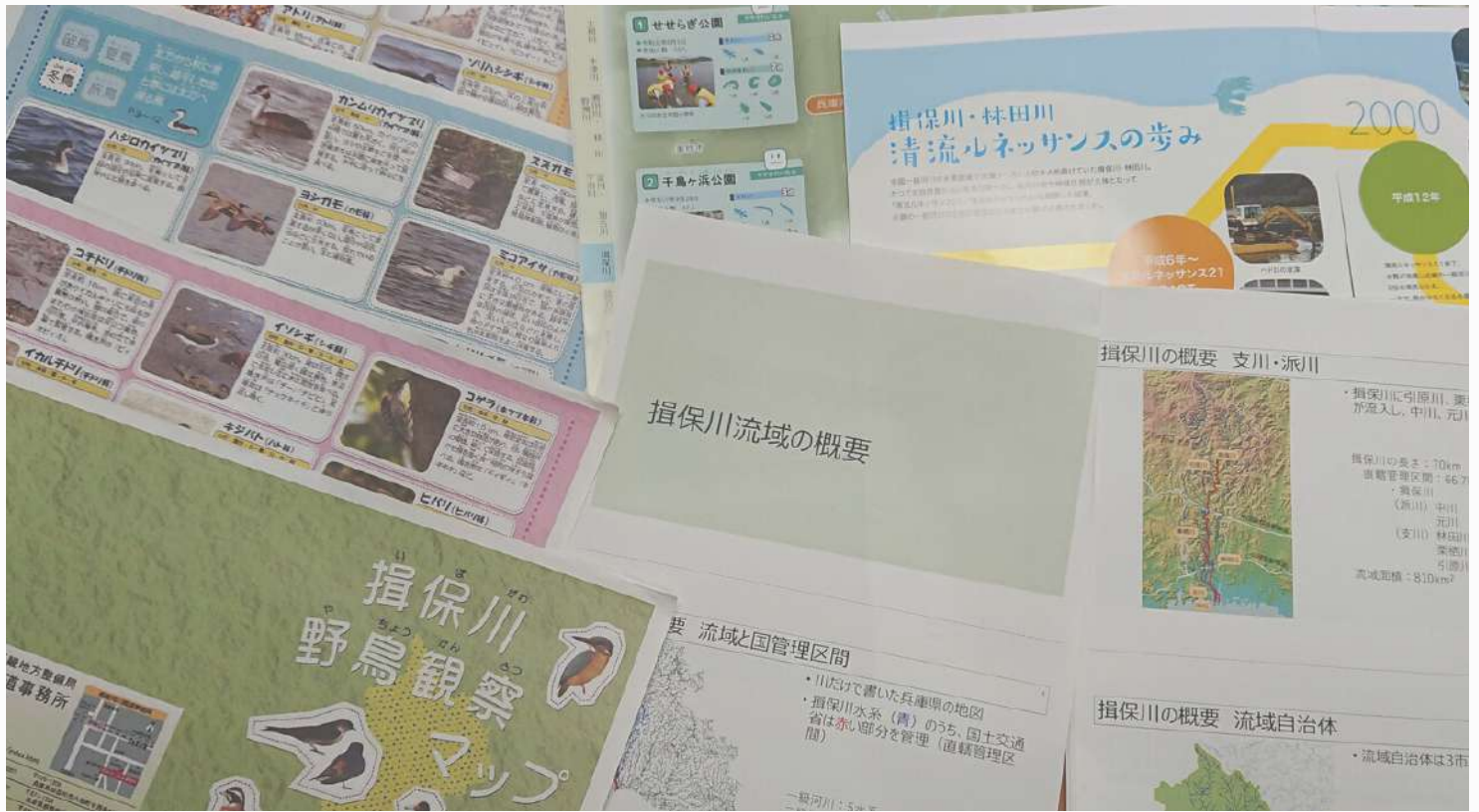
Contents

- ・ 姫路河川国道事務所 — 1
- ・ 千種川源流を守る会 — 3
- ・ 次世代に残したい西播磨の自然 — 6

制作：第10期西播磨地域ビジョン委員会
ふるさとつづりチーム

Member

西本 諭 (宍粟市)	竹田 有希 (宍粟市)
池本 士郎 (たつの市)	永富 元 (たつの市)
西口 弘 (たつの市)	池内 義明 (相生市) 炭田 哲也 (相生市)



姫路河川国道事務所

生態系を調査し環境保全に生かす

ふるさとの自然や環境保全、特に河川について調べる事にしました。播磨五川のうち西播磨に揖保川、千種川の二川がある。今回はそのうちの揖保川について概要、自然環境整備、生物、野鳥等、また将来計画等も調査ということで姫路河川国道事務所を訪問した。

「川の素顔・命の水 揖保川」及び「揖保川の環境事業の概要」等の資料により説明を受ける。

揖保川は、その源を兵庫県宍粟市藤無山（標高1.139m）に発し、山間部を流下し宍粟市曲里（しろうしまがり）地先で引原川と合流し、伊沢（いそ）川、菅野（すがの）川、栗栖（くりす）川など合わせて播州平野を流下し、さらに林田川を合流し河口付近で中川を分派し、姫路市網干区で瀬戸内海播磨灘に注ぐ一級河川である。幹川流路延長約70Km、流域面積約810Km²であり、流域はたつの市をはじめとする3市2町からなる。

環境の概要

揖保川は干潮区間、連続する瀬と淵といった場で構成され多様な環境を有している。川床勾配や川床材料、川幅、生物の生息、生育・繁殖状況等から、上流部（引原川合流点より上流）、中流部（引原川合流点～栗栖川合流点）、下流部（栗栖川合流点～浜田井堰・中川床固）、河口部（浜田井堰・中川床固～河口）に区分することができる。

瀬戸内海に注ぐ兵庫県の代表的な一級河川、揖保川。

「清流」とも呼ばれる川はどのように守られてきたのでしょうか。

環境整備の取り組みについてお話を伺いました。

上流部（引原川合流点より上流）

針葉樹林や広葉樹林の混合林、ブナやイヌブナの貴重な林や、ヤマセミ、カワセミなどの鳥類、特別天然記念物のオオサンショウウオなどがみられる。哺乳類については、テンやアナグマ、ニホンジカが確認されている。

中流部（引原川合流点～栗栖川合流点）

瀬・淵を形成、瀬ではアユ、カワヨシノボリそしてオヤニラミが生息している。また「丸石川原」と呼ばれる礫河原にはアイヌハンミョウ、イカルチドリ、カワラハハコ、カワラサイコ、フジバカマなど動植物が生息、生育、繁殖している。

下流部（栗栖川合流点～浜田井堰・中川床固）

繁茂しているオギ群落には鳥類のオオヨシキリの繁殖場所となっている、又 砂礫地ではユリカモメの採食・休息・羽づくろい等が確認されている。そしてメダカ、タナゴ類が生息、そのほかトウヨウモンカゲロウ等も確認されている。両生類はニホンアカガエル、陸上昆虫ではホンサナエ、トノサマバツタが確認されている。植物としてはミゾコウジュ、カワジシャなどが確認されている。

河口部（浜田井堰・中川床固～河口）

河口部の瀬はアユの良好な産卵場となっている、又 干潟ではハマサジ、アイアシ、ハママツナ、フクド、ホソバノハマアカザ、ウラギク、ナガミノオニシバ、イソヤマテンツキ、など貴重な塩沼植生域となっています。又 ハクセンシオマネキ等の生物の生息・生育・繁殖環境としての機能をしています。その他の魚類ではエドハゼ、クボハゼ、トビハゼ、鳥類ではシロチドリ、カモメ、アカツクシガモが確認されている。

自然の環境保全これを維持してゆくことが大事で、このことを考えるとやはり動植物等の生き物の存在が不可欠になってくる、これが我々人間にとっても大切なことと考えます。

最近この地球上で想定外の大雨、暴風、地震等が発生している。これに対する取り組みは具体的には聞けなかった。しかし災害に対しては想定できる最大規模の出水等の対策、浸水エリアの注意喚起という形で取り組んでいる。そして原形復旧が原則とのことでした。

<訪問先>

国土交通省 近畿地方整備局
姫路河川国道事務所

(兵庫県姫路市北条1-250)



姫路河川国道事務所の
HPはこちら





千種川源流を守る会

かけがえのない千種の魅力を守り生かす取り組み

概要と各メンバー感想

2021年11月6日（土）朝7時自宅を出発、途中道に迷いながらも8時40分集合場所である「ラドンの泉」に着いた。2時間以上かかると思っていただけに早くついてひと安心した。10時前には参加者全員集合した。そして「千種川源流を守る会」の方と待ち合わせ場所「ライオンズの森」の立て札付近の広場まで行く。

そこで「千種川源流を守る会」によるレクチャー（自然を観察しながらハイキング）、阿曾会長、杉本会員に案内していただき、山を少し登ったが、ススキの原野状態となっており木がほとんどなく、現在モミジの植林をしているとのこと。

しかし、降雪が多い上に、イノシシ・シカ被害もあり、なかなか育たないが、毎年頑張って植樹してゆくと説明がありました。私が見た限りでは広さは甲子園球場ぐらいかなと思い、これぐらいなら獣害対策として半永久フェンスは無理としても、太陽光発電による電気柵ぐらいは設置方法をよく検討すれば出来るのではないかと思います。

また、遊歩道を作り観光客を呼びたいと云うような説明であったと思うが、ススキの原野でも素晴らしい風景なので、山そのものをあまり開発せず、自然そのものはそのまま残してゆくという考えもあると思います。

11時ごろ下山し休憩をとり、11時30分散散した。

また、この日いただいた資料の中に「千草鉄」の項目があり、この千草鉄の“たたら”のルーツに興味を持ち、以下そのルーツを調べてみました。



県境の江浪峠に源を發し、全国名水百選にも選ばれている千種川。川の保全と源流域の活性化に取り組まれている「千種川源流を守る会」を訪問しました。

宍粟市には、たたら神様である「金屋子神（かなやごのかみ）」が天から舞い降りたという伝説が残っています。

島根県安来市広瀬町の金屋子神社に伝わる祭文（のりと）には、「村人が雨乞いをしていたという所に、天より神が舞い降り、驚く村人に『吾は金屋子神である』と告げられ、人々が安心して暮らせ、作物がよく実るようにと、傍らの岩石をもって鍋を作られた。このため、この地を『岩鍋』という。だが、ここには住み給うべき山がなく白鷺に乗って出雲の地に行かれた」と記されています。

播磨国志相郡岩鍋は、現在の千種町岩野辺のことであり、古代製鉄“たたら”のルーツは、この地にあるともいわれています。

この岩野辺に荒尾鉄山跡がありここより上流300メートルほど上がった所に「金屋子神」が天から舞い降りたとされる所があり、桂の木の古い株があって、根元に小さな祠の跡がある。この桂の木に舞い降りたといわれている。

以上、“たたら”のルーツについて、とても参考になり勉強にもなりました。このことが現在の製鉄業にどのように進んでいったか疑問に思いそして興味もわいてきた。
(西口)

視察場所は、市の土地で木を切り、現在は、ススキが沢山生えている状況であった。広大な山から見ればほんの一部なのかもしれないが、植樹することで、川の水がきれいになるだけでなく、観光スポット化や土砂崩れが起きにくい土壌になるなど沢山の効果があると分かった。また、その地域によっても自生する木や、植樹しても育ちにくい木があるということ。特に今回の視察では雪により木が倒れてしまうということだった。地滑りしにくい土壌づくりや、綺麗な川を守るためには、地域によって対策が異なり、自然を守ることの苦労がわかった。

(池内)

<訪問先>

千種川源流を守る会

(兵庫県宍粟市千種町黒土637番地)



千種川源流を守る会の
HPはこちら





概要と各メンバー感想（つづき）

お話を聞くまでは「山」と「川」のつながりが漠然としていて、どのような活動をされているのかも想像がつかなかったが、広大な山林部を維持保全されている現状を知り非常に驚きました。清流の保存のために木を植樹し、土壌を作り、源流へ豊かな栄養を送ることで生態系の環境を回復とのお話が印象深く、川そのもの単体では環境が整わないということを考えさせられました。また、実際の活動の場にお邪魔させていただくことで、一口に植樹活動をしていると言っても大変な苦勞のもとに活動を続けられていることを身をもって知ることができました。

歩くこともままならず冬には雪に閉ざされる環境で、どうしてこのような活動が続けられたのかとも思いましたが、お話の最後にあった“子供たちのために誇れる環境を”との部分にそのすべてが込められているのだと感じ、我々のふるさとつづりチームとしての活動もそのような部分を伝えていければと思いました。

（炭田）

大規模な土砂崩れのあった地域に知人が住んでいたこともあって、植物からできる黒土が土砂崩れに強いということが印象に残りました。

また、現在自生している茅でも、黒土ができますが、広葉樹を植え登山道を整備する手間をかけることで観光にも繋げていこうという前向きな思いで、地域のために活動されている方がおられるからこそ、地元の小学生からも千種川は自分たちにとって財産だというような言葉が出てきたのではないかと思います。

（竹田）



次世代に残したい 西播磨の自然

ふるさとつづりチームメンバー7名が、活動を通して得た気づきや学びを基に、未来の子どもたちに残していきたい西播磨の自然について自由に語ってみました。

近年、川の氾濫や、土砂崩れなど各地で被害が出ており、被害が出ないためにも防災の取り組みは重要である反面、過度な整備は、子どもが気軽に遊べなかったり、生態系が崩れるなどの問題が出てくる。今回ふるさとつづりチームでは、自然の危なさ、自然の楽しさを子供たちに残したいという想いで参加しました。川や山の近くで生活する人に向け、市と連携した防災意識の向上の取り組みや、土砂崩れの防止だけでなく、川の水がきれいになるために源流近くの山に木を植えるなどボランティア活動をしていた。長い将来、子供たちが笑顔で安心して遊び、暮らせる環境にするためには、一人ひとりが小さなことでも出来ることをすべきであると感じました。

池内 義明

羅漢の里にて

(相生市)



環境チームに参加した動機は以前からCOPに関する報道に関心があったから。ビジョン委員会は西播磨の将来を考えるものであれば気候変動条約は避けて通れない。化石燃料使用廃止を決定したらしいが、実現すればガソリン車は無くなり、自動車はバスを含めてすべて電気自動車となって、今までの唸り声をあげての走行は無くなります。今の見慣れた状況は一変し違う景色となります。ただ何がどう変わるのか、どんな生活になるのか、毎日がどう変わるのか、皆さん分かっていないのです。枠組会議は毎回主要国と途上国が対立し毎回徹夜のマラソン会議となるようです。太平洋上の島国は海没し国土消滅の危機。簡単には引き下がれないらしい。そのため会議は紛糾し徹夜の連続となり体力勝負のふらふら状態で会議は終了するのが常らしい。

また、姫路河川国道事務所でお話を聞いて以来、河川の整備状況に、より関心を持つようになりました。そんな中、少し前に揖保川の土砂除去工事が実施されていることを偶然みかけました。小規模工事のようでしたが、もし水害事故が発生すると甚大な被害も想定されるため、工事効果は極めて大きいと思われます。河川事務所は大変有効な工事をさりげなく実施しており、工事実施は高く評価できると思います。今後も、地元の川の状況に関心を持っていきたいです。

池本 士郎

ふるさとつづり

次世代に残したい
西播磨の自然

夕日の相生湾を望む (相生市)



私が残していきたい自然の風景はこの慣れ親しんだ相生湾の風景です。初夏にはペーロン競漕が行われ、冬には牡蠣の恵みでにぎわうこの海岸線は私の子供の頃からの原風景でもあります。今までは気にも留めていませんでしたが、このふるさとつづりチームの活動を通じて、山・川・海とすべてが循環し、この豊かな海が守られているのだとあらためて気づかされました。これから先も、ふと気づいたときに変わらない風景であってほしいと思います。

炭田 哲也

一口で、“私達のふるさと西播磨”を語ることは難しいものです。ましてや、全体を語るとなると至難の業なのです。しかし、幸いにして、北から南に向け、揖保川と千種川の2本の川を辿ると、西播磨の全てを網羅すると言えるのではないのでしょうか。そして、この川の自然を守り、次世代に残すことこそ、私達に示された使命ではないのでしょうか。

揖保川の源流は何処なのか。姫路河川国道事務所を訪問し、教えて頂きました。千種川の源流を守ることに取り組んでおられる皆様の苦勞を拝見させて頂きました。これらは、西播磨をふるさととする私達一人一人の、川の自然を守るという、小さな思いが一体となって、実現するのではないのでしょうか。

また、自然を守ると同時に、私達は川の恩恵に与っています。日常生活において、切っても切れない“水”の水源でもあります。

自宅近くに、西播磨水道企業団の野田水源地があります。その水源地の、高さ50余メートルの塔を利用し、ふるさとの自慢である、清流揖保川に注目し、内外に宣伝して頂く目的で、12月にはイルミネーションで飾り、8年目(8回目)になります。水の有難さを皆様と共に考え、清流のあるふるさとを、誇りとして行こうではありませんか。

永富 元

野田水源地の イルミネーション (たつの市)



オオサンショウウオという生き物をご存じですか。別名を「ハンザキ」ともいい、揖保川や千種川にも生息している世界最大級の両生類です。普段は、巣穴や川底に住み、川魚や川に落ちた動物を捕食しているため、あまり見かけることはありませんが、繁殖期である8～9月頃に活発に動き回り、農業用水路等に迷い込み、保護される個体もいます。私は地元で就職した後に、オオサンショウウオが揖保川や千種川に住んでいることを知りましたが、意外と身近なところにいる生き物です。

一方で、他の生息地では、外来種との交雑により、絶滅が心配されているなど、保護が必要とされている生き物もあります。こういった生き物が残っていることが、西播磨地域の魅力であり、次世代にも残っていてほしい財産であると思います。

竹田 有希

オオサンショウウオ



揖保川にて (たつの市)



「自然の四季は巡るが、人生の四季は一度しかない。」と云うが次世代にはこのままの自然を残したい。

「人の心は変わるのに、優(やさ)しい景色は変わらない」という言葉のように優しい景色の自然そのものの現状維持を基本に考える方が良いのではないのでしょうか。また最近プライバシーや権利を主張する人が増え、隣近所や地域・街のことを考える人が少なくなって来ているように思う、我々人間も自然に帰るようにしたいものです。西播磨の現在の気候も瀬戸内海式気候で他地方に比べ温暖でとても住みやすい、山・川・海等この自然を維持継続し次世代に残す努力が必要ではないかと思います。

西口 弘

西播磨地域の豊かな自然を、未来の子ども達にも残したい。自然豊かな地域で、心豊かに成長してほしい。との思いで「ふるさとつづりチーム」に参加いたしました。その為には、まず自分たちの地域を知ることから始めようと考え、山・川・海とつながる自然や地域を学ぶことから始めよういたしました。

一方で、近年は自然災害が多発する状況の中で、自然災害対策や河川整備計画も確認する必要があると考え、姫路河川国道事務所にも伺ったが、結論を出すとするれば、人命を最優先とするが、豊かな自然も守り抜かなければならない。と言う結論に至るのか。

西本 諭

ふるさとつづり

第10期西播磨地域ビジョン委員会 ふるさとつづりチームの活動記録

制作

第10期西播磨地域ビジョン委員会 ふるさとつづりチーム

問合せ先

西播磨地域ビジョン委員会事務局
(西播磨県民局県民交流室県民活動支援課)
〒678-1205 兵庫県赤穂郡上郡町光都2-25
TEL:0791-58-2128